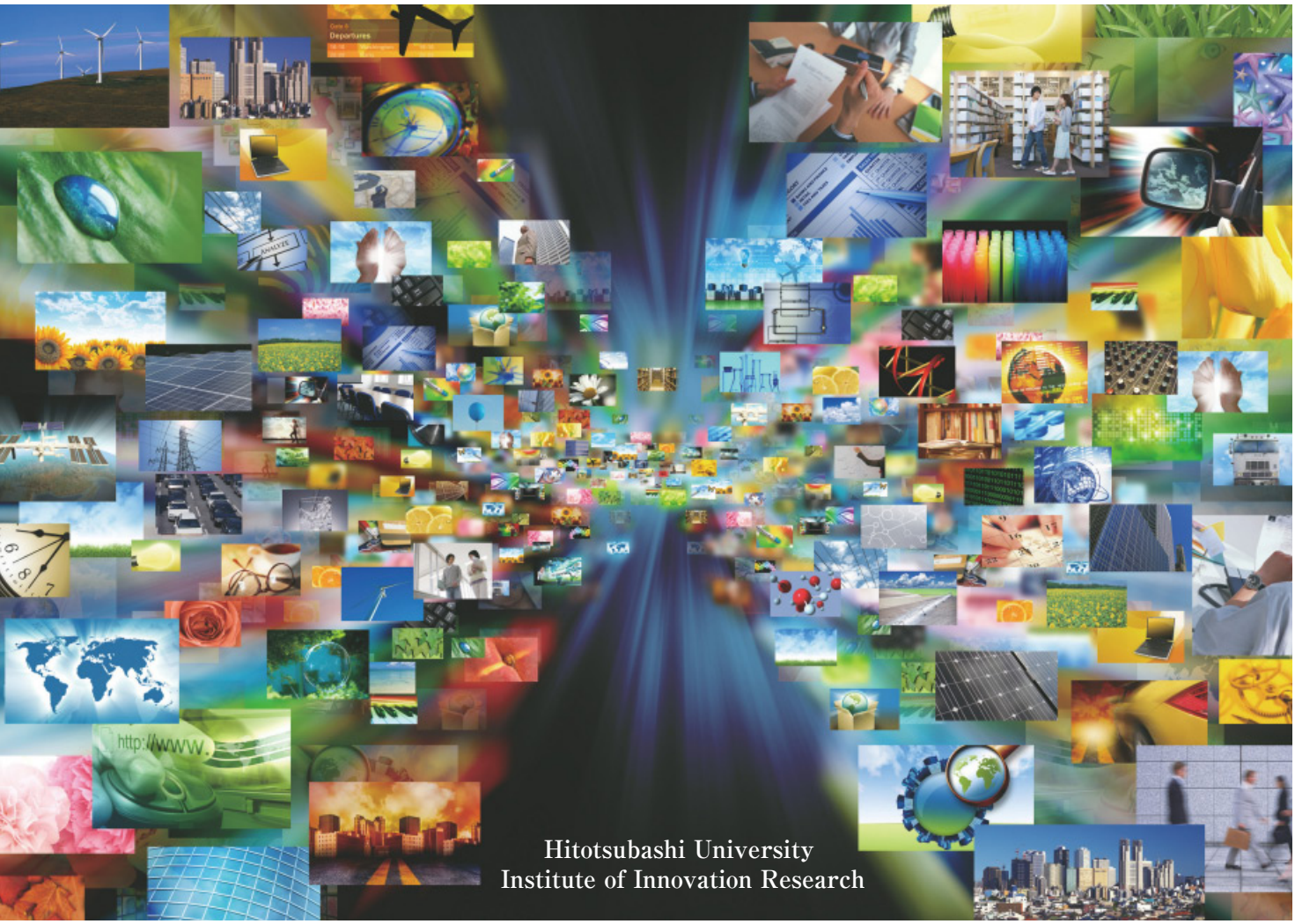
イノベーションの新次元へ



ビジネス最前線と先端テクノロジー、マネジメントを政策に反映させる
――イノベーション研究センターの意欲的な提案

イノベーションの社会的プロセス研究の拠点になる――一橋大学イノベーション研究センターは1997年に、日本で初めて社会科学の視点からイノベーションを研究する組織として誕生しました。ここでいうイノベーションとは、「現状にとどまるのではなく、新しいやり方や考え方を取り入れ、社会に役立つより大きな価値を創りだすこと」（延岡健太郎イノベーション研究センター長）。技術ばかりでなく経済社会の仕組みを含めて、これまで誰も見たことのない新しい大きな価値づくりを行うことです。今では、イノベーションの影響が、経済的側面ばかりでなく、文化や政治にいたる社会のあらゆる側面におよんでいます。

イノベーション研究センターでは、国内外の文系理系、産官学などあらゆる垣根を越えた自由なやり取りを軸に研究を進めています。イノベーション研究のグローバル・ハブとして大きな役割を担っているのです。

最近では、文部科学省の〝科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」基盤的研究・人材育成拠点整備事業〟や、日本学術振興会の「最先端・次世代研究開発支援プログラム」に応募して採択されています。

この二つのプロジェクトに共通しているのは、時代の要請に敏感に対応していること。ビジネス最前線の現場と先端テクノロジー、経営マネジメントの現状と政策との乖離をなくすことによるイノベーションの創造や、それを担う人材を積極的に育成しようとしています。